



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 健やかな身体の育成
- ④ 豊かな心の育成
- ⑤ 生徒の良さを伸ばし、課題を
解決するための「連携・協働」を推進する

中学卒業後の進路について考えよう！

中学校では、様々な教育活動を通して、中学卒業後の進路について考えていきます。特に、3年生になると、より現実的な課題となり、自分ごととして、これから進んでいく路（みち）を考える時期を迎えます。具体的な目標が明確な人もいれば、漠然とした夢や希望はあるものの、この先の進路がなかなか描けていない人もいるでしょう。

そのような中で、目の前に迫ってきた中学卒業後の進路について、心配になったり不安になったりすることはないでしょうか。同じような気持ちを保護者の方も抱くかもしれません。

中学校で行う「進路指導」は、そんなイメージを抱いている生徒（又は保護者）が“多数いる”という前提からスタートします。

私たち（教職員）の役割の一つとして、生徒に見通しを示しながら、自分自身の将来を考えていくきっかけを与えることがあります。進路に関する情報を提供し、よき相談相手でありたいと考えています。まずは、不安や心配ごとの払拭です。先生方のアドバイスを受けて、日々の取組を充実させていきましょう。

Rome was not built in a day.

また、進路を考える中学時代、家庭でも大人としての意見や経験等、これからの生き方を、我が子に伝えるチャンスではないでしょうか。よき相談相手として、我が子と一緒に悩み、考えていきましょう。保護者の皆様にとっても、今までの自分自身を振り返り、これからの人生を考える機会にしてください。

大人の立場からすれば「中学時代で、将来が決まってしまうわけではない」というのは、しごく当然のこととして受け止められます。私自身も教職に就く（中学教師）と決めたのは、大学時代です。自分に合った進路を選ぶのは、時間がかかるものなのです。

ただ、先の見えない子供たちにとってみると「これ（高校入試）で、すべてが決まってしまう」と思い込んでしまうかもしれません。

私たち大人は、子供たちの“自立”を促しながら、より豊かに自信をもって生きていけるよう、応援していきましょう。どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的な展望に立ち、人間形成を促す活動が「キャリア教育」であり「進路指導」の目指すところです。

進路に関するご質問等、遠慮なくお知らせください。随時、学校からも情報提供をしていきます。

第50回 若鮎祭のゆくえ①

9月には、生徒会最大行事の学園祭（本校では“若鮎祭”といいます）が行われます。現在、生徒会役員を中心に、その企画・検討が行われています。



今年度、50回目を迎えますが、今から楽しみです。

ところで、中学校では様々な教育活動を行っています。一般的には、国語、社会、数学といった教科が学習の中心だと思われていますが、学級活動、総合的な学習の時間、特別の教科道徳もあります。将来、一人前の社会人としての常識を身につけ、社会に貢献できる基礎・基本を学んでいます。これを自治的活動ともいい、生徒会活動は、その中心で、“自分たちの生活を、自分たちの手で、よりよいものにしていく”ことがねらいです。第50回若鮎祭も、その活動の延長にあります。

では、“生徒会役員としての苦勞”とは何でしょうか。それは“人をまとめる”ということです。結果を残すことも必要ですが、その取組過程において、意見を出し合い、考え、協力し、1つの目標に向かって、みんなをまとめ、新しい文化を創りあげていくことが大切です。そこに至るまでの道のり（過程）が大変で、歴代の生徒会役員の方々は、その苦勞を経験してきたはずで。

今年度も加藤生徒会長を中心に、一丸となり頑張っています。道志中学校のよき伝統を守りながら、さらに発展させる活動を展開してくれています。本校には、学校をよりよくしようと張り切っている生徒や真剣に学習や部活動に取り組んでいる生徒がたくさんいます。